



常識に挑戦し続ける男

世羅町小国 宮田 聖己さん

「オーナーが輝けば従業員が輝く。従業員が輝けば店が輝く。町が輝く、そして元気が発信できる。」いつも笑顔が耐えない宮田聖己さんは語る。商売も思うようにならないと不景気のせいにはいませんか。不景気を逆手に、チャンスと捉え、原点に帰ることが必要でしょう。

オバマ大統領のキャッチフレーズは「チェンジ」。私は、「知恵時」知恵を出す時」と言いたい。

「叶える」という字

は、口にプラス＝叶。

話はいつも前向きにプラス思考で進みたい。

笑顔のまちづくり
一諸の笑顔

また、笑顔でいると良い事がある。体が温まる。スポーツでは記録が向上する。その上、心のマッサージ効果もあると言われます。

笑顔の練習も簡単に出来ますよ。

まず、割り箸の先を唇に咥える→これは苦虫の顔。横にくわえると笑顔になりますか。時間を作って笑顔づくりを続けてみませんか。心が柔かくなるでしょう。

物事には節目があります。一・三・五・十年、正月・お盆・年末など…。



① 幸せを呼ぶ基本は「器」の心
話す口＝相手に気持ちを伝える力（挨拶など）

② 笑う口＝笑顔のあるところに人が集まる（笑顔の口）

③ 食べる口＝健康、生活のリズム（きちんと食べる習慣）

④ 辛口＝人の忠告に耳を傾ける（謙虚な気持ちで）

この四つの口を大きく育て「器」を作る。商いは笑顔で自分を売り込み、そこで心を磨く。

笑顔は歯磨きと同じで、毎日磨くことが必要です。嬉しいから笑う。楽しいから笑う。泣きたい時こそ笑おうよ。きっと良いことが訪れる。

地域の心をひとつにして感謝をささげるのが祭り。掛け声のワッショイは、「輪が一諸」。祭りには笑顔が似合う。「あんたの顔は親のせい、あんたの笑顔は自分のせい。」みんな一緒に笑顔で暮らそう。笑顔で町が輝く、我が町から元気を発信しよう。

編集後記

温暖化の影響か。町内の5月降水量は33ミで、33年ぶりという最低を記録した。山田川ダムの貯水率が4・8％にまで落ち込んで、水稲、畑作に大変不安を投げ掛けた。

小学校統合で白熱した6月定例会。H23年度に向け、町内の10小学校が4校に統合されることに決まった。

町内の小学校は、それぞれ特徴を持った学校である。

少子化で小規模校は「知・情・意」のなかの「知性」を培うことは出来ても「感情」「意志」の円満な発達を促すことは難しい。しかし適正規模校では、「知情意」を培う人間教育が出来ると思う。

しかも、単に教わるだけでなく、同時に自分も語り、多くの意見を聞き、競い合い、互いに励まし合うという切磋琢磨がある。

一校に集中すると言うことではなく。新しい学校をみんなて建設するという精神で進みたいものである。

児童が、この町で育って良かったといえる世羅町にしたい。

（西田）

議会を傍聴してみませんか
次回定例会は9月です

日程は無線放送でお知らせします。
またケーブルテレビでも本会議の中継をしています。

議会広報公聴
調査特別委員会

委員長／福田 義人
副委員長／松本 秀治
委員／西田美喜男・安佐 長秀
福田 豪・奥田 正和



ラベンダーの香りがいっぱい



この広報は、環境にやさしい植物性大豆インキで印刷しています。